

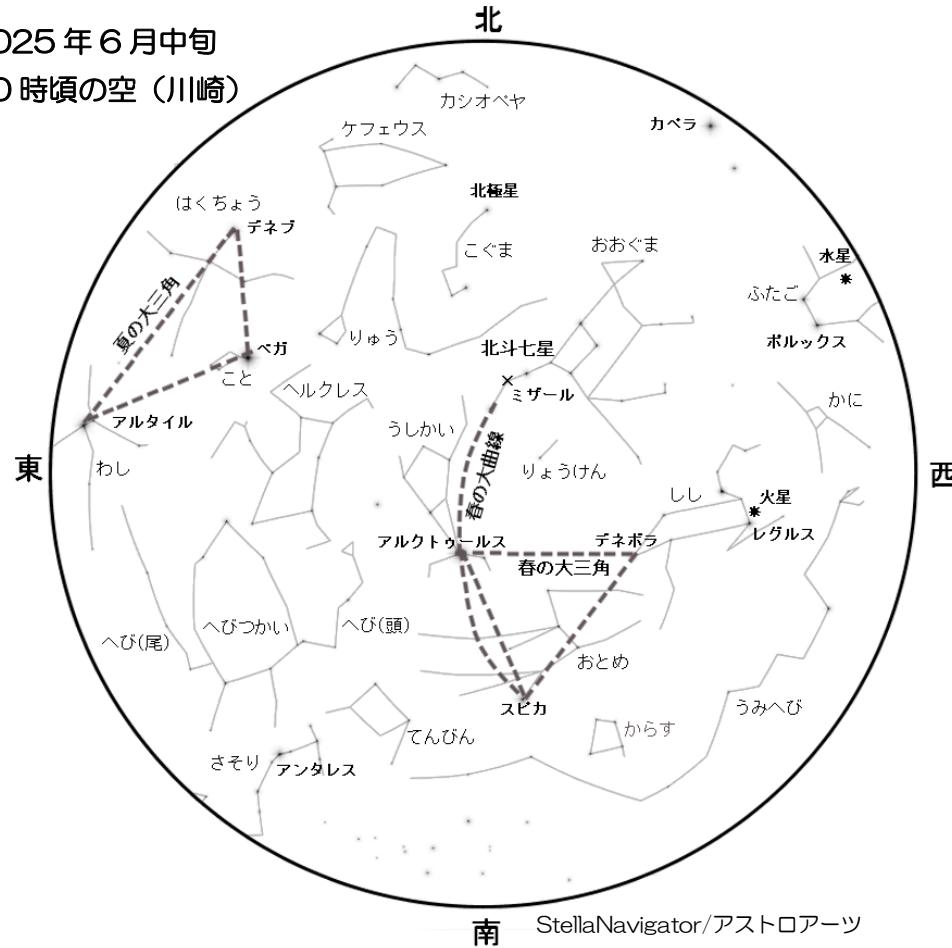
アストロテラス 夜間一般公開

2025年6月7日（土）

*このリーフレットは科学館天文サポーターの協力により作成しています。

2025年6月中旬

20時頃の空（川崎）



2025年6月

6月上旬の20時頃の夜空では、西の空には順に沈みつつある春の星をみつけることができます。北の空には「北斗七星」が輝き、その柄のカーブを南に伸ばして「アルクトゥールス」、「スピカ」とつなぐ「春の大曲線」や、アルクトゥールス、スピカ、そしてしし座のしっぽの星「デネボラ」で作る「春の大三角」は、まだ見ることができます。

一方、南の空では、さそり座の1等星、赤く輝く「アンタレス」が目を引きます。

さらに、東の空からは夏の大三角を作る、こと座の「ベガ」、わし座の「アルタイル」、はくちょう座の「デネブ」という3つの1等星が昇ってきます。

晴れた夜には、肉眼でこれらの星たちを探してみませんか。さらに双眼鏡や望遠鏡を使うと、星の色や輝きの違いもよりはっきりと感じられますよ。

これからの中天現象

●注目現象

- 6月 10日 月（月齢 14.4）がアンタレスの南側を通過する
- 19日 月（月齢 23.4）が土星（1.0等）の北側を通過する
- 21日 夏至、1年で最も夜が短い
- 22日 月（月齢 26.2）が金星（-4.2等）の北側を通過する
明朝の東の空に、細い月と金星（明けの明星）が並ぶ
- 27日 月（月齢 2.0）が水星（0.2等）の北側を通過する
日の入り直後の西の空の低い位置に、細い月と水星が並ぶ
- 7月 4日 水星が東方最大離角、夕方、西の低空で見ごろ
(水星の見かけの位置が太陽から最も離れた状態)

●月の満ち欠け

- 6月 11日 満月
- 19日 下弦
- 25日 新月
- 7月 3日 上弦

2025年6月の観望天体（予定）

【ミザール】

ミザールは北斗七星のひしゃくの柄の端から2番目の星です。ミザールのすぐそばにはアルコルという星があり、2つの星がとても近くに輝いて見える「二重星」として知られています。アルコルはアラビア語で「かすかなもの」を意味し、アルコルが見えると視力が良いとされていました。

【月】

今日の月は上弦から満月へと向かう途中にあります。太陽光が横から当たるため、クレーターや地形の陰影が際立ち、クレーターの観察に適しています。

月は地球の周囲を橢円軌道で公転しているため、地球からの距離が毎日変化します。地球に最も近づく場所を近地点、最も遠ざかる場所を遠地点といいます。夜間公開のある6月7日は6月における月の遠地点通過日にあたり、今月中でもっとも月が地球から遠ざかるタイミングです。

アストロテラス 夜間一般公開の流れ

19:30～19:50 受付

先着順で整理券を配布し、番号の順に望遠鏡で観察していただきます。

※雨雲天等、観察が難しいと予想される場合は中止。

実施の有無は、当日15時に当館SNSでお知らせします。

最新の科学館の情報は
ホームページ・SNSを
ご確認ください。

公式ホームページ



X (旧Twitter)



アストロテラス夜間一般公開の
感想をぜひご記入ください。
(所要時間 1～2分程度)



トピック

【雨と星】

ちょうど今の時期に空高く昇る、うしかい座のアルクトゥールス。日本的一部地域では、この星は「五月雨星」(五月雨＝梅雨) や「雨夜の星」と呼ばれる梅雨の時期を知らせる星でした。古くから「雨の時期がいつ来るのか」というのは、農耕や水害に関わるとても重要な情報のため、人々は夜空の星々をカレンダー代わりにしていたのでしょうか。

では、反対に晴れを呼ぶ星はあるのでしょうか？

そろそろ見納めとなるふたご座の兄弟、カストルとポルックス。ギリシャ神話におけるこの2人は、「嵐で船が沈みかけたとき、2人が天空(ゼウス神)に祈るとたちまち空が晴れた」という逸話から航海の神ディオスクロイ(ゼウスの子どもたち)とも呼ばれます。

ふたご座が空高く昇る3月は、ギリシャでは雨季(12～3月)が終わる頃のため、本当に晴れを呼ぶ星座となっているのです。そう考えると、日本では梅雨に入る頃にふたご座が見えなくなるというのは、偶然ですが興味深いですね。

雨(水)と星は関係が深く、雨の日には空を見上げる代わりにそれらの神話や民俗文化に触れてみるのも面白いかもしれません。

ふりんのひとことメモ



6月21日は夏至の日だよ。日本では太陽の南中高度が一年でいちばん高くなつて、影の長さがとっても短くなるんだ。

夏至の日は昼の長さがいちばん長い日だけど、日の出がいちばん早いのは6月13日頃で、日の入りがいちばん遅いのは6月29日頃なんだよ。みんなは知ってた？